

和牛と複合で経営安定 — 規模拡大、収穫作業受託で地域に貢献 —



サトウキビと和牛の複合経営で地域をリードする若山さん夫妻と次男の聡さん

鹿児島県天城町
若山光秀さん

サトウキビ主産地の1つ鹿児島県の徳之島。砂糖政策が一昨年から新制度に移行する中、島民のサトウキビへの期待は大きく、栽培面積拡大につなげる。島内3町の1つ天城町の若山光秀さん(58)は3年前から念願の年間1000ト生産を突破。家族5人で収穫面積18畝に加え、作業受託面積31畝、和牛繁殖47頭(親牛)の複合経営の生産者だ。規模拡大により産地を引っ張る。

若山さん一家は、機械化による一貫体系での適期管理作業と土づくりに努め、品質向上や収量増につなげる。作付けは「農林8号」が多く、次いで「農林33号」、ほかに「農林17号」「農林23号」。作業分担は若山さん夫婦が自作地、長男は牛の管理全般、長男の妻や次男はハーベスターを使っての受託作業で、繁忙時は助け合う。「サトウキビの作業は午前8時から午後5時までと決め、めりはりをつける」(若山さん)とこだわり、生産性を高めてきた。10ヶ収量は昨年6・5トだが、今年産は7・5ト、生産量1200トを見込む。

若山さんが飼養する和牛のたい肥は全量サトウキビほ場の土づくりに還元。収穫時に発生する、はかまや梢頭部は畑にすき込み、地力の向上につなげている。また、製糖工場搬入時に発生するトッシュを利用して和牛生産者もおり、徳之島では循環型農業を実現している。若山さんの畑がある三京地区は湿気が多く、雑草が生えやすいため、早めの除草対策にも力を注ぐ。受託分は収穫と株出し管理などの作業が中心であるが、これらの作業を認定農業者等に委託することは、農畜産業振興機構からの交付金を受けるための要件の一つとなっている。若山さんの受託によることで、交付金の対象となった生産者も多く、地域に貢献している。

生産者の収入は、製糖工場からのサトウキビ原料代と農畜産業振興機構からの交付金の2種類になったが、関係機関の連携により交付金交付手続きはJAによる交付金申請時の支援や代金処理も従来通りに円滑に行われている。平均糖度14度前後を確保していれば、合計で1ト当たり2万円台を維持でき、若山さんは「農畜産業振興機構からの交付金を含めた価格水準の確保は必要で、励みになる。規模拡大を目指したい」と意欲を燃やす。栽培面積25畝、生産量1500トへの拡大が目標。同町では近年、帰島者が栽培を始めるケースが目につく。また、規模拡大を望む生産者も多く、島内での農地入手が難しくなってきたのが悩みだ。

地元の製糖企業である南西糖業(株)の中村研治専務は、サトウキビ生産は島に生産額の約4倍の経済効果をもたらしている点を強調。「価格を含め振興対策を求めることは必要。島民ももっとサトウキビのことを知り、地域経済に意義深い取り組みをしていることを認識して欲しい」(中村専務)と生産振興に期待を寄せる。

(独)農畜産業振興機構からのお知らせ

鹿児島県南西諸島と沖縄県のさとうきび生産者の皆様の経営安定を支援しています。

問合せ先
特産業務部砂糖原料課 ☎03-3583-8960
鹿児島事務所 ☎099-226-4731
那覇事務所 ☎098-866-1033

平成21年度に実施する畜産関係の補助事業「畜産業振興事業」について、事業実施主体の公募を予定しています。

問合せ先
食肉生産流通部 ☎03-3583-8687

詳しくは、当機構のホームページをご覧ください。お気軽にお問い合わせください。

○ホームページ <http://alic.lin.go.jp>

alic 独立行政法人 農畜産業振興機構